1年生の取り組み

共生社会の実現に向けて

1.ねらい

障がい者をとりまく問題について知るとともに、誰もが住みよい共生社会を実現するために自分ができることを考える。

2.学習計画

第1次　ある日、障がいをもつことになった人が前向きに生きるために必要なものを考える。

第2次　バリアフリーとユニバーサルデザイン

第3次　身のまわりのバリアフリー、ユニバーサルデザインの例から、必要な配慮とは何かを考える。

第4次　バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方を知り、すべての人が不自由なくともに生きるための工夫について考える。

3.生徒の感想

- 「人に声をかけたりするのはとても勇気がいるし、不安なこともある。でもあなたの行動で相手の心は温かくなるかもしれません。」のマセソンさんの言葉を聞いてとても心が動きました。自分も相手に声をかけたりするのはとても苦手だけど、その一言で相手は変わるかもしれないことがすごいと思い、共感しました。一人ひとりの思いや一言で人は変わることがわかりました。
- スロープがある近くに自転車をとめないとか、使う人のことを考えて行動しようと思いました。障がい者でもできることがあったりするから自分の思い込みで、その人の意見を聞かないということがないように、自分も一緒にできることを考えていきたいなと思いました。困っている人を助けるのはいいけど、その人の気持ちを考えて助けられる人になりたいです。
- 自分の思い込みでいやな思いをしているかもしれないので気をつけたいです。助けようと思う気持ちも大切だけど、相手の見方によってはやめてほしいこともあるかもしれないから、コミュニケーションも大切にしたいです。設備だけではなく、周りの人の対応や環境があってこそ住みやすい町になると思う。
- 日常にはどんなバリアがあるのかを考えることができました。バリアをなくすことで、過ごしやすくなる人がいるので、もっとなくしていきたいなと思いました。これから困っている人がいたら、優しく声をかけて助けたいと思いました。
- 「目が見えないから、耳が聞こえないから、足が使えないから何かしてあげないと」、これは勝手に自分が思っているだけの思い込みで、実際そんなことを望んでいないかもしれ

ない。相手のことも考えて手助けをする。けっこう難しいなって思いました。施設もだけど、バリアをなくすためにはそもそも「助けたい」「平等でいたい」「普通に暮らしてほしい」そんな思いやりの心が大事だと思いました。思いやりからできたバリアフリーとユニバーサルデザインも、そんな思いやりの心が大事だと思います。

2年生の取り組み

部落差別（同和問題）についての正しい知識と差別を許さない態度を身につける学習

1．ねらい

部落差別（同和問題）は昔のことではなく、インターネットなど形を変えて、今も続く深刻な差別である。しかも、就職や結婚など、自身の人生の節目で出会う可能性の高い、身近にある差別の一つである。このことを理解させ、加害者にならないため、正しい知識を身につけ、絶対に差別は許さないという態度を養うとともに、現実的に存在する部落差別に出会った際に正しく行動できるようになる。

2．学習計画

第1次　部落差別（同和問題）って何？
第2次　結婚は誰のため？
第3次　人権啓発映画『ホーム』視聴
第4次　ふりかえり作文

3．生徒の感想

- 知らない人が増えれば部落差別はなくなっていくというものではなく、正しい知識がないから繰り返されていくのだと思いました。
- 今まで私は、差別されている人たちを苦しめるのは偏見や嫌悪の感情を受けることだと思っていたけれど、知らないことや見て見ぬふりをすることもまた、それと同じくらい人を苦しめることだと学んだ。
- 今回の授業で、ぼくは身近な差別・いじめについてもう一度考えたいと思いました。SNSなどのアンチコメントや人に何気なく言ったことが悪いことにつながるかもしれないので、自分自身をもう一度見つめなおし、一人ひとりの「生きる権利（人権）」を大切にしていきたいと思いました。
- 差別をなくすのに一番有効なのは、いろんな人と話すことといろんなことを知ることだと思います。差別をなくすためにも、自分はたくさんの経験をして広い視野を持てるように

なりたいと思いました。

・ この社会から差別をなくし、世界中のどんな人でも平等に生きられるようにするためには、私たち一人ひとりが他人を尊重し合い、違いを認め、受けとめあい、身勝手な“普通”がはびこる社会を壊していく意識が必要です。違うことがあたりまえ、むしろ違うから楽しいという考えを皆が持ち、誰もが幸せだと思える世界を私たちの代で作り、素晴らしい未来へとつなげていきたいです。

3年生の取り組み

これまでの人権学習を振り返って

1. ねらい

・ これまでの人権学習をふりかえる機会を設ける。

・ 現代にもある人権課題を自ら見つけ、調べ（探求し）、共有（発表）することで、義務教育を終えた後も、変化し続ける社会に対応できるような人権感覚を磨く。

2. 学習計画

第1次 「テーマ決め／調べ学習①」

第2次 「調べ学習②」

第3次 「調べ学習（予備）／発表練習」

第4次 「クラス発表／感想用紙記入」

☆ 第4次はクラスで班ごとに発表した。テーマに沿って調べた内容を模造紙やスライドにまとめ、全員で分担して行った。発表する側も聞く側も真剣な態度で、学びを深めている様子がうかがえた。調べ学習の模造紙やスライドは校内のあらゆる場所に掲示し、全校生徒がじかに見ることができるようにした。

3. 生徒の感想～発表を終えて～

・ SDGsや外国人、障がい者やLGBTQについて、6 班分の調べたことを知ることができ、自分の知らなかったこともあったので興味深かったです。また、改めて世界にはまだまだたくさんの課題があることに気づきました。“身近なことから”それらの課題を解決する取り組みをしたいです。

・ 自分の発表では、グラフを使って具体的な数字を出したり課題を明確にしたりすることができた。クラスメートの発表では、一つ一つの人権問題は人の偏見や差別から始まっているんだなとわかった。自分の知らなかった外国人への差別があるのにはびっくりしたので、気づかないうちにしているかもしれないと思った。

・ 発表をきく中で、「差別・偏見をなくす」という内容が多く出てきて、人権に関する問題は

差別や偏見が原因であることが多いと再認識することができた。今ある人権問題を解決するために、また、新たな問題を生まないために、差別や偏見をなくすことが重要だと感じた。差別・偏見をなくすためには、正確な情報を得て、情報だけでなく、周りや自分の考えも含めてしっかり根拠や責任を持った行動を取りたいと思った。

- それぞれの班が発表した内容の中にはあまり身近に感じづらい問題もあったけれど、それらの問題を解決するためにはまず自分がその問題について関心を持って理解することが大切だと思った。
- 人権問題の発表を聞いて、まず、特に無意識的な偏見に注意し、相手を知り（知ろうと思い）、認めることを日常的に意識したいと思いました。SDGsについては、今自分ができることは少しでも実行し、自分や周りの意識、空気感を変えていきたいと思いました。小さいことでも全員が少しずつ積み重ねることで変化はいつか起きるので、どんなことも有言実行していきたいです。